

1. 要 旨

湖沼湿原調査では、^{まつかわうら}松川浦の湖沼調査及び松川浦を中心に周辺を含めた約100km²を対象とした土地利用調査を実施しました。

(1) 湖沼調査

湖沼調査として松川浦の地形・底質・水中植物を調査し、次の結果を得ました。

- 1) 松川浦の湖底地形は、浦内に設置された各漁港へと続く浚渫された滞筋と、それ以外の浅い部分に分けられます(図-2)。
- 2) 松川浦の最深部は松川浦漁港(松川浦地区)の防波堤出入り口付近の滞筋にあり、約8.5mです(図-11)。
- 3) 底質は松川浦大橋から浦奥に向けて、岩から砂、泥質砂と粒径が小さくなっていきます(図-12)。
- 4) 水中植物は、大洲と呼ばれる東側の砂州と中州、機械島と呼ばれる浦内の島との間の滞筋を除く部分にアマモが密生し、藻場を形成しています。

(2) 土地利用調査

土地利用調査として、1972(昭和47)年頃、1990(平成2)年頃及び2008(平成20)年頃の3時期の地形図から松川浦地区の土地利用現況とその変化を調査し、次の結果を得ました。

- 1) 各年代で田が減少してきていますが、全体に占める割合は依然として一番多いです。
- 2) 田の面積は1972年と比較して1990年には約5.4km²、2008年には約7.8km²が減少しています。
- 3) 都市化が進み、都市集落及び道路・鉄道等は1972年では約11km²でしたが、主に田、畑地・果樹園等及び森林からの変化により、2008年では約25km²に増加しています。

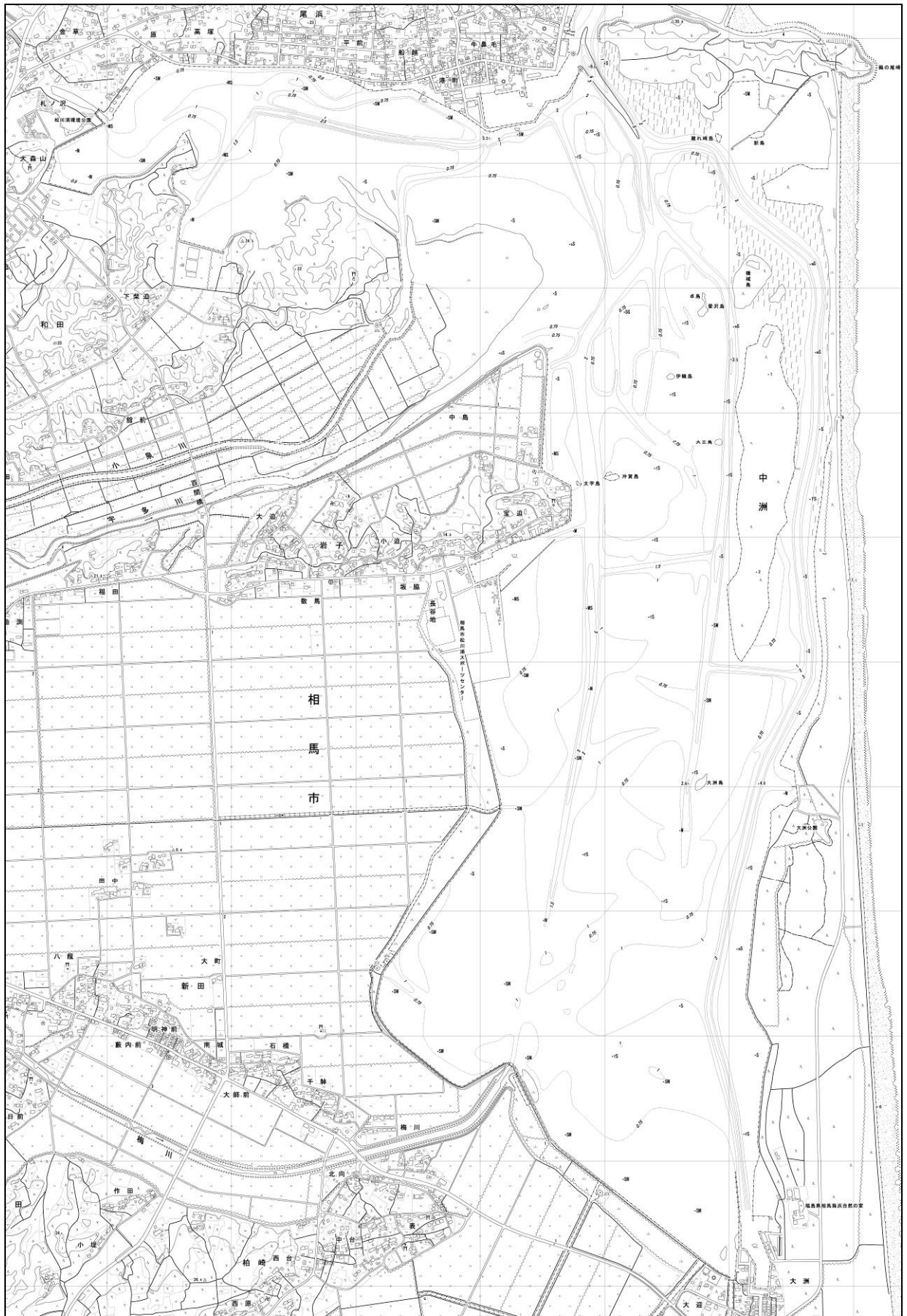


図-1. 湖沼図「松川浦」